

4: 赤外線サーモグラフィによる乳房炎検知に関する研究

畜産生命科学研究部門 古村圭子・家畜生産ユニット4年小野智央、田代将大

メールアドレスkfuru@obihiro.ac.jp

研究の概要

【目的】

赤外線サーモグラフィ装置を利用して、1)24時間連続測定における乳房温度の変化、2)乳房温度に影響を与える要因の検討、3)乳房炎乳区を健康乳区と識別できるかどうかの検討を行った。

【方法】

乳房温度は日内変動を示し、昼間および夜間に比べ朝の時間帯が、乳房温度の測定に他の要因の影響が少ないことが判った。また乳房炎治療牛では、乳房炎乳区は健康乳区に比べ、有意に乳房温度が低い乳区が多くみられた( $P<0.05$ )。

【結果】

以上から赤外線サーモグラフィは乳区別温度差を識別可能であり、乳房炎の検知能力があることが示唆されたが、酪農家における実用化には更なる研究が必要であろう。